

# One Team 古北「古北の心得」



みんなが 夢中になれる 学校  
通いたい・通わせたい・支えたい・勤めたい

## 1 当たり前のことが自然にできる。

- 児童に当たり前が何かを問いかけ、自然にできるように支援する。
- 「挨拶」「歌声」「笑顔」「思いやり」「感謝」「『き』力」を高める学校を目指す。

## 2 気づきを大切にして、やる気を引き出す。

- 相手の話を最後まで聞くことの大切さを伝える。
- 相手の考えと自分の考えを比べて、よりよい方法考える児童を育てる。
- 気づき、考え、実行できる児童を育てる。

## 3 児童の間違いや失敗を生かす。

- 児童の失敗をチャンスととらえ、教え諭して失敗から学ぶ雰囲気をつくる。
- 学級は、「分からない」「ごめんなさい」と素直に言える安心できる「居場所づくり」「絆づくり」にする。
- 児童間のトラブルは、児童同士で解決できるスキルの育成を図る。

## 4 やさしさあふれる言葉で接し、「明日も待っているよ」を積み重ねる。

- 児童に夢を語り、なりたい自分になれるよう応援する。
- 取り組む過程や挑戦する姿を称賛する。
- 「明日も待っているよ」を積み重ねる。



古北小キャラクター「リダー-7」

## 5 教師力向上を目指す。

- 研鑽と修養を重ね、教師も学び、共感し、感動する。
- 「授業の心得」、教師の発問、手立て、児童の学びの姿について、教員同士で語る。
- 異学年交流、ゲストティーチャー、地域社会とのつながり等を活用した授業に挑戦する。
- 校務DX化に取り組み、デジタルとアナログのベストミックスを探る。
- 勤務時間を意識する。

## 6 危機意識を常にもつ。

- 児童を傷つける言葉を使わない。
- 体罰は絶対にしない。
- 危機管理「さしすせそ」で対応する。(最悪を想定し、慎重かつ速やかに、誠意をもって、組織で対応する)
- 来校者への礼儀を忘れない。また、電話対応は特に丁寧な受け答えをする。
- 誠意は「スピード」「期日を守ること」である。

## 7 「ありがとう」があふれる学校にする。

- まずは、「ありがとう」があふれる職員室にする。
- 教職員同士の「共感」「感謝」「One Team 古北」この言葉を忘れない。